グリニッチ福音キリスト教会
Manna
マナ 072
2010年01月17日

【今週の暗唱聖句】コロサイ３:16

**キリストのことばをあなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。**

コロサイ３章１６節以外にも沢山の有名な「３章１６節」があることをご存知ですか？是非聖書を調べてみてください。●暗唱したいのは、ヨハネ福音書、Ⅰコリント、エペソ、Ⅰテモテ、Ⅱテモテ、Ⅰペテロ、Ⅰヨハネ、●重要な真理はマタイ、ルカ、使徒、Ⅱコリント、ガラテヤ、Ⅰテモテ、●厳しい警告はローマ、ヘブル、ヤコブ、Ⅱペテロ、黙示録。

●人間はそもそも神の言葉によって生きるように創造されている。悔い改めた者は、神の言葉に立ち返り、それを心に「豊かに住まわせ」ることを始めるのである。

●神の言葉は「知恵を尽くして」学ばなければならないほど深く豊かである。それを一人で学ぶことも必要だが、他の人と共に学び合うことで理解が進むのである。また他人は自分の欠点を客観的に見ることができるので正しく戒めてくれることが可能なのである。

●以上のプロセスを忠実に踏んでいく者たちは御言葉の約束通り、実り豊かな者とされて行く。詩と賛美と霊の歌を持って創造性を豊かに発揮し、神を賛美しよう。

---

## 【教会について（２）】　「神の家族」

教会は神に呼び集められた人々の集まり／エクレーシアであり、緊密に分かち合って生きる人々の交わり／コイノニーアであることを前回新約聖書で使用されている原語から考察した。

●エペソ2:19には更に「あなたがたは･･･神の家族なのです。」と説明している。主イエスは神を「父」と呼ぶように弟子達に教え(マタイ23:9)、聖霊も私たちに「アバ父（お父さん／DAD）」と呼ぶ心を与えてくださる。主イエスは神の家族にあっては「長子」と言われ(ローマ8:29)、私たちは神の子供という特権に与っている(ヨハネ1:12)。母がいないでは、と思うかも知れないが、傍らで慰め励まし力づけ、御言葉を教え、喜びで満たすという聖霊の一つ一つの働きをよく観察するなら非常に母的であることが理解できるだろう。(但し、聖書で聖霊を「母」とは一切表現していないので私たちは神の啓示に留まる必要がある)。さらに、家を飛び出した放蕩息子(罪人)は父の家、家族の所へ戻って来るのである。

●神が私たちに人間の家族、そして地上での神の家族である教会を体験させてくださるのは、実体である「天における神の家族」に対する期待とあこがれを持たせるためであると言っても良い。教会こそ、そもそも神が人類のために計画されたマスタープランなのである。■

## 【ハイチのために捧げましょう／祈りましょう】

ご存知の通り、1/12(火)に未曾有の地震がハイチ首都ポルトープランスを襲いました。国民の80%が貧困の中で暮しているという中南米の最貧国であるハイチでは、地震を全く考慮してこなかった中、この事態に対応するための組織も対策もなく、重機もありません。死者推定５万人と予測される中、各国の支援も滞っている状況が続いています。今、いちばん必要とされているのは、現金です。長くハイチに取り組んで来ているワールドビジョンで募金を募っていますので、志の有る方は、次のウェブページを通しておささげください。http://www.worldvision.jp/

---

## 【先週のメッセージより】 *種蒔きのたとえ* マタイ13章

●私たちは当然、種まきのたとえの中の「良い地」でありたいが、農夫が何十年も同じ土地から収穫を上げ続けるために不断に１）肥料を入れて耕し、２）種を蒔き3)水、肥料を与え、除草をし、成長を助けるのと同じように、主の畑である私たちも生涯、実り続けるためには、このサイクルを確立していく必要がある。もっとも基本となる日々のデボーションを考えよう。

***1）耕す→聖霊の助けを求める短い祈り*** デボーションを始める際いきなり聖書を読み始めることをせず、サムエルのように「主よ、お話しください。僕は聞いております。」と自らの従順を告白し、理解を助けて下さる聖霊に拠り頼む祈りを捧げるようにしよう。

***2）種まき→御言葉を読む*** 御言葉こそ神の力を内包する「種」である。御言葉を忠実に学び続けることなしにクリスチャンとしての実りはありえない。だから私たちは毎日、御言葉を読み、種まきを続けるのである。今朝読んだ御言葉を忘れてしまったと言って悩む必要はない。地面に蒔かれた種は最初、土に隠れて見えなくなるが、時がくればちゃんと芽を出す。逆に今日、芽を出すのは過去に蒔かれた御言葉の種であることが多いのである。

***3）水やり→黙想と適用の祈り*** 種を蒔いたら水やりと肥料、雑草抜き等のメンテナンスが必要である。同様、読んだ御言葉のために私たちは黙想／思い巡らし、自分の生活にどのような意味があり、どう適用していくか、具体的に考えることが大切である。そしてそれを祈りの形にしていくのである。このため、デボーション・ノートをつけることを是非お勧めしたい。またその日読んだ聖書箇所には自分にとっての適用がないからと言ってがっかりしてはいけない。読んだ御言葉は今日出会う他人のためのものとして主が与えてくださることも少なくない。その意味でも最後は執り成しの祈りをもってデボーションを終えるのが望ましい。■